

## 大阪府立信太高等学校 令和5年度学校教育自己診断報告

信太高校 首席

### ＜ 目 的 ＞

- ① 信太高校の教育活動全般についての充実発展を図るため、教育の送り手と受け手の双方からの評価を点検・分析し、教育上の課題を明らかにすることで、今後の生徒への指導に役立つ資料とする。
- ② 毎年一定の時期に実施することで経年変化を把握し、生徒の指導に役立つ資料とする。
- ③ 「学校評価」について、教育委員会への提出書類の基礎資料とする。

### ＜ 実施時期 ＞

令和5年11月16日～12月22日

### ＜ 実施対象 ＞

生徒、保護者、教職員

### ＜ 情報開示 ＞

生徒、保護者、教職員、学校運営協議会、学校ウェブサイト 等を開示

### ＜ 回答数 ＞

	回答数	全体数	回答率（前年度比）
生徒	600名	680名	88.2% (-6.1)
保護者	290名	680名	42.6% (+7.6)
教職員	51名	51名	100% (±0)

※令和5年度は保護者の回答方法をWEB上のアンケートシステムとマークシートの、いずれかでの方法で回答する形で実施。

### ＜ 評価結果と分析の見方 ＞

設問の大半は[A：あてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない]の四択式です。

報告書では各設問を、

- |            |              |             |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 学校運営・環境 | 2. 教育相談・人権   | 3. 学校生活     |
| 4. 学習・体験   | 5. 進路指導・生徒指導 | 6. 特別活動・その他 |

に分類し、その中で特に注目すべき点について、評価・分析・重点目標を記しています。また使用している数値は『肯定的評価＝A＋B の%』です。

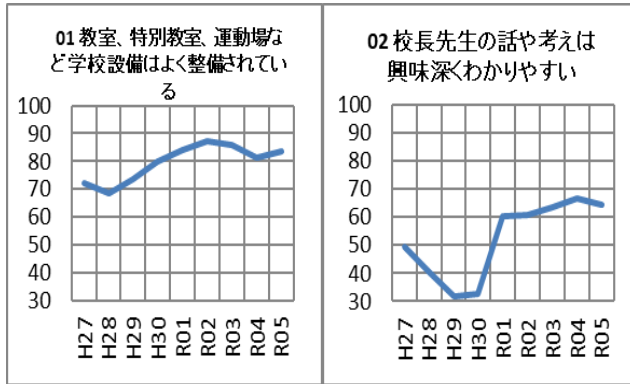
1. 学校運営・環境

<評価>

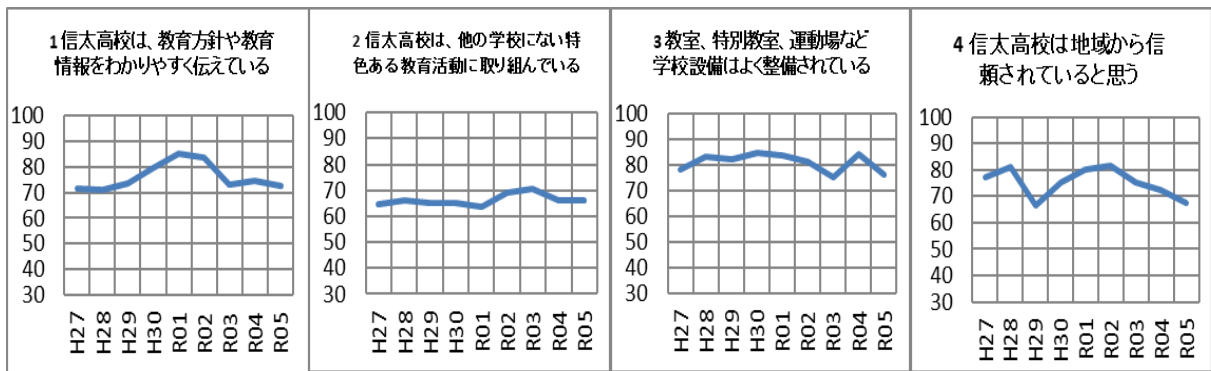
生徒・中学生のときに、信太高校の体験入学や学校説明会に何回参加しましたか

現1年生 (1回 44.1%・2回 9.9%・3回以上 6.4%) 計 60.4%

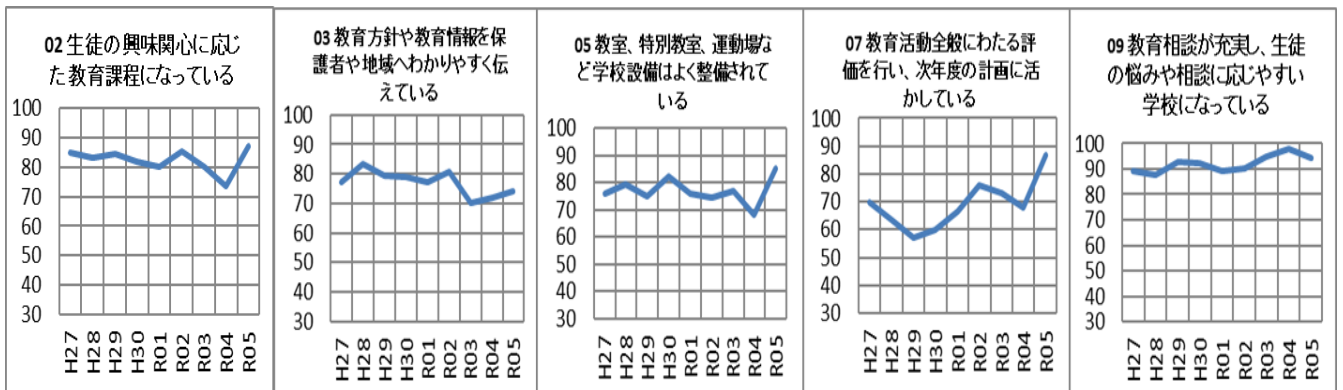
- ・教室、特別教室、運動場などの学校設備はよく整備されている 83.5%
- ・校長先生の話や考えは興味深くわかりやすい 64.2%



- 保護者・信太高校は、教育方針や教育情報をわかりやすく伝えている 72.4%
- ・信太高校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる 66.2%
  - ・教室、特別教室、運動場などの学校設備はよく整備されている 76.5%
  - ・信太高校は地域から信頼されていると思う 67.5%



- 教職員・生徒の興味関心に応じた教育課程になっている 87.0%
- ・教育方針や教育情報を保護者や地域へわかりやすく伝えている 74.1%
  - ・教室、特別教室、運動場など学校設備はよく整備されている 85.2%
  - ・教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしている 87.0%
  - ・地域連携が行われ中学校や地域の期待に応える高校になっている 83.4%



#### <分析>

◇学校設備について整備できていると捉えているのは、生徒・教員ともに 80%を超えており、生徒や教員の 1 人 1 台端末の使用やネットワークの無線化などの ICT 環境をはじめとして、特別教室や運動場などの学校設備において、様々な形で生徒の教育活動が行うことができる環境が整っていると考えられる。

◇興味に応じた教育課程（教員）については、昨年度と比べて 13.4%増加している。来年度から新コースでのカリキュラムが始まるため、生徒の現状に合わせたカリキュラムであると感じていることが考えられる。来年度以降新コースでのカリキュラムが実施されてからの結果に注意していく必要がある。教育活動の特色（保護者）については 2 年連続で減少しており、スポーツコースや共生推進教室など本校独自の教育活動について、よりわかりやすく広めていく必要が感じられる。

◇信太高校の地域からの信頼や期待についての項目について、保護者、教員ともに減少している。教員については 80%を超える値であるが、保護者については過去 2 番目に低い値である。学校の取組として地域への活動は行っているが、その内容がニーズと合致していない、または地域への活動を上手に伝えられていないなどの理由が考えられる。まずは、地域から求められている学校像の調査が必要であると考えられる。

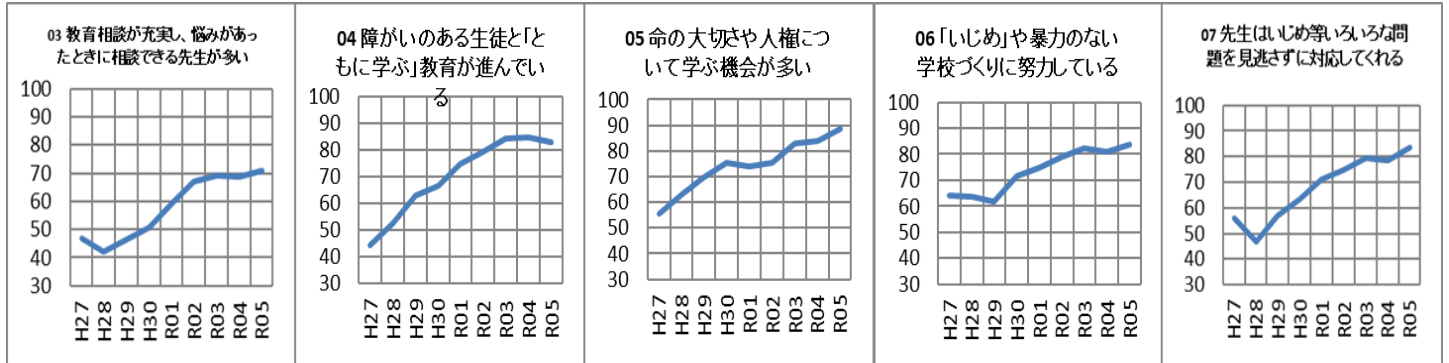
#### <重点目標>

教員の値については、ほとんどの項目で増加しているが、保護者の項目については、すべてにおいて減少している。この原因として考えられることの 1 つとして、学校の情報発信の方法の未熟さが考えられる。学校の方向性を整理し、「どのような方向性で、なにに取り組んでいくか」の情報をわかりやすく学校外へ発信する方法を考えていく必要がある。

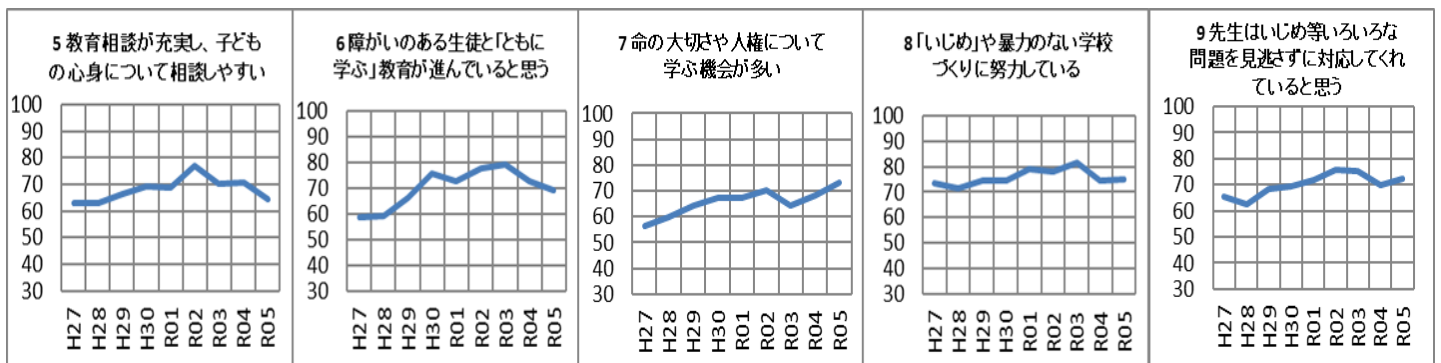
## 2. 教育相談・人権

<評価>

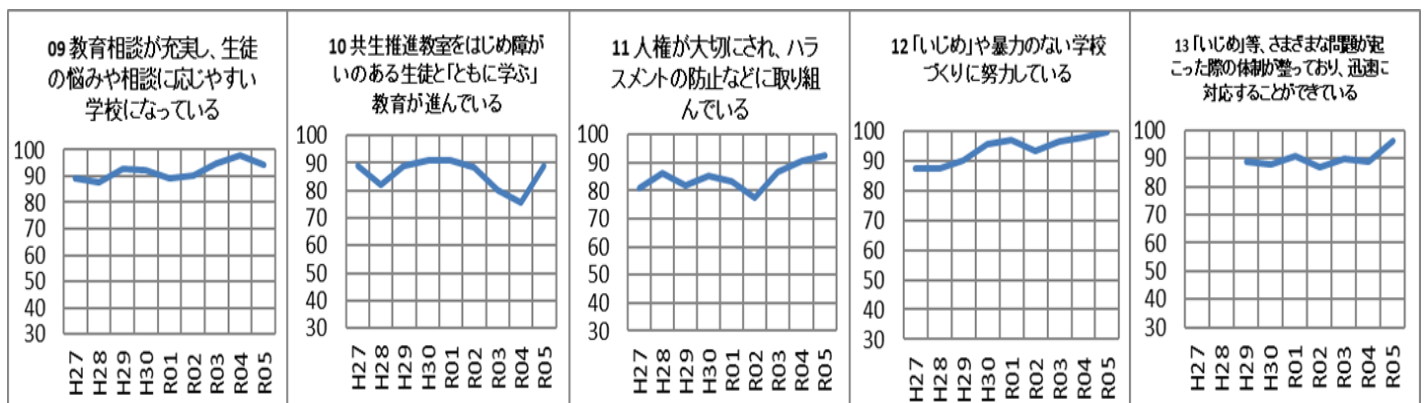
生徒・教育相談が充実し、悩みがあったときに相談できる先生が多い	71.0%
・障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいる	83.0%
・命の大切さや人権について学ぶ機会が多い	88.7%
・「いじめ」や暴力のない学校づくりに努力している	83.9%
・先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれる	83.4%



保護者・教育相談が充実し、子どもの心身について相談しやすい	64.5%
・障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいると思う	68.9%
・命の大切さや人権について学ぶ機会が多い	73.0%
・「いじめ」や暴力のない学校づくりに努力している	75.1%
・先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれていると思う	72.1%



教職員・教育相談が充実し、生徒の悩みや相談に応じやすい学校になっている	94.4%
・共生推進教室をはじめ障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいる	88.8%
・人権が大切にされ、ハラスメントの防止などに取り組んでいる	92.6%
・「いじめ」や暴力のない学校づくりに努力している	100%
・「いじめ」等、さまざまな問題が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている	96.3%



#### <分析>

◇「教育相談が充実し、悩みがあったときに相談できる先生が多い」（生徒）は過去最高の値であった。スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)の来校や居場所カフェの実施がより充実し、生徒のニーズを満たしていることがわかる。これからも SC・SSW に繋げる最初として教員に相談しやすい環境を作っていく必要がある。

◇いじめや暴力、問題の対応についての項目は生徒・保護者・教員すべてにおいて増加しており、生徒・教員においては 80%を超える高い値であった。いじめに関しては、年 3 回のアンケートを実施し、その結果から担任などからの聞き取りの実施など、学校としていじめは決して許さないという姿勢が伝わっているものと考えられる。

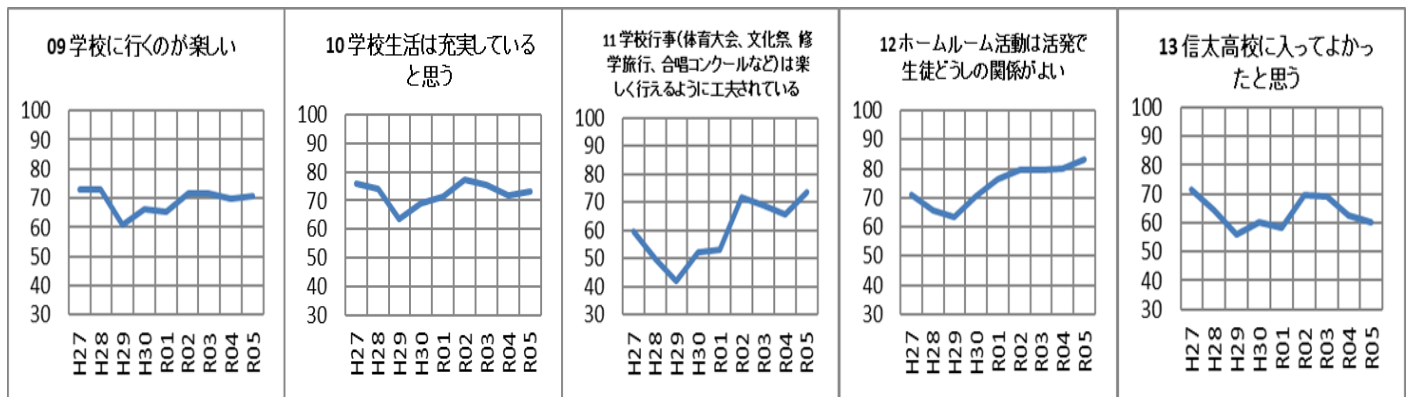
#### <重点目標>

教育支援・教育相談体制については、昨年度同様、生徒に寄り添った支援を心がけ、より一層安全・安心な学校作りに努めていることから、一定数の肯定的回答が見られる。教育相談では、保護者が相談しやすい体制を整えていく必要があるが、全体的な方向性はそのまま、さらに相談しやすい雰囲気づくりなどを意識していく。

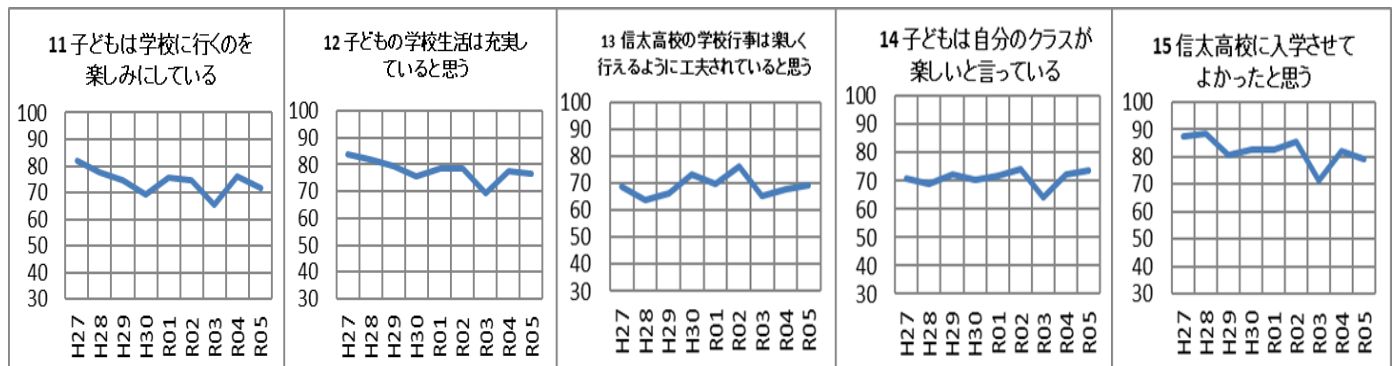
### 3. 学校生活

#### <評価>

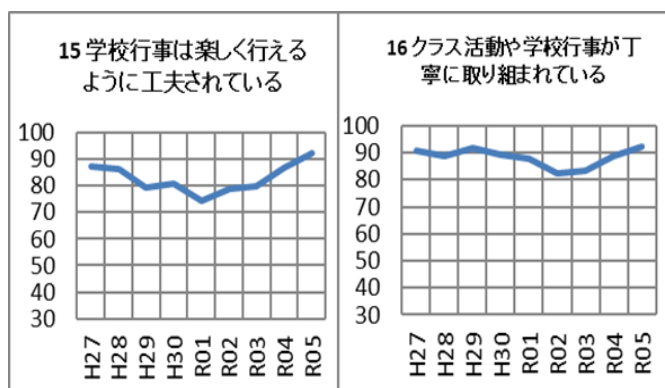
- 生徒・学校に行くのが楽しい 70.5%
- ・学校生活は充実していると思う 73.0%
- ・学校行事（体育大会、文化祭、修学旅行、合唱コンクールなど）は楽しく行えるように工夫されている 73.4%
- ・ホームルーム活動は活発で生徒どうしの関係がよい 83.2%
- ・信太高校に入ってよかったと思う 60.0%



- 保護者・子どもは学校に行くのを楽しみにしている 71.7%
- ・子どもの学校生活は充実していると思う 76.6%
- ・信太高校の学校行事は楽しく行えるように工夫されていると思う 69.3%
- ・子どもは自分のクラスが楽しいと言っている 73.6%
- ・信太高校に入学させてよかったと思う 79.1%



- 教職員・学校行事は楽しく行えるように工夫されている 92.5%
- ・クラス活動や学校行事が丁寧に取り組まれている 92.5%



<分析>

◇「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」の項目では、生徒・保護者・教員すべてにおいて増加した。生徒では 7.8%増加している。また、生徒では「学校に行くのが楽しい」「学校生活は充実している」の項目も増加している。コロナ禍で制限されていた学校行事が、かつての形に戻っていくことで、より活動的な学校生活を過ごせていることが考えられる。

◇「ホームルーム活動は活発で生徒同士の関係が良い」(生徒)の項目も4年連続で上昇している。

<重点目標>

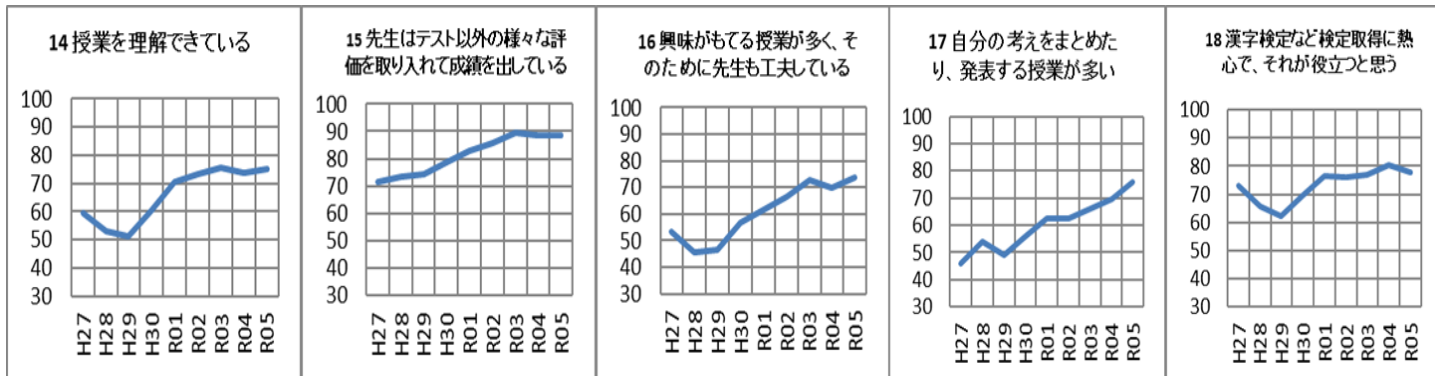
今後も変わらず、生徒が楽しく安心して学べる居場所をつくることと充実した学校生活を送ることができるようになっていくことが重要である。

学校行事に関する項目が増加している一方で、「信太高校に入ってよかったと思う」(生徒)「信太高校に入学させてよかったと思う」(保護者)が減少している。学校行事以外の点から、信太高校の良さを伝えていく必要がある。また、「信太高校に入ってよかったと思う」(生徒)「信太高校に入学させてよかったと思う」(保護者)では、生徒と保護者との差が 19.1%ある。生徒・保護者それぞれが求めている学校像の調査が必要だと考えられる。

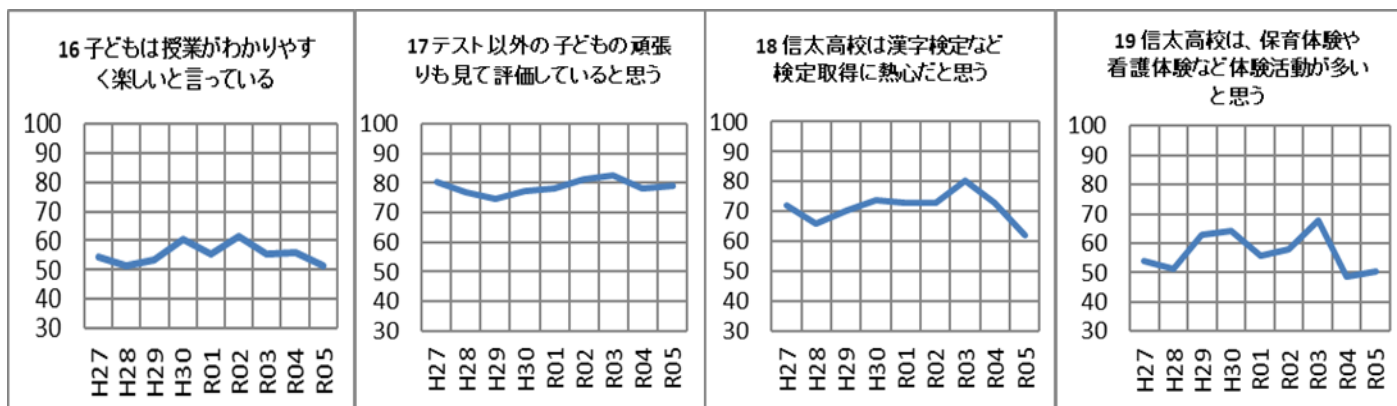
#### 4. 学習・体験

##### <評価>

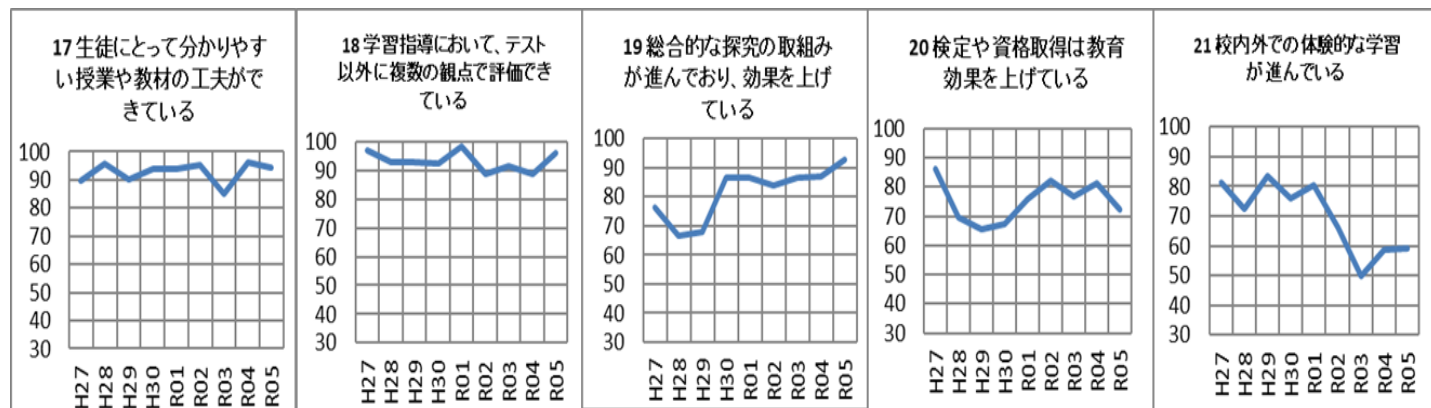
生徒・授業を理解できている	(3年 84.9% 2年 73.4% 1年 67.4%)	全学年	75.2%
・先生はテスト以外の様々な評価を取り入れて成績を出している			88.7%
・興味が持てる授業が多く、そのために先生も工夫している			73.7%
・自分の考えをまとめたり、発表する授業が多い			76.0%
・漢字検定など検定取得に熱心で、それが役立つと思う			77.7%



保護者・子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている			51.7%
・テスト以外の子どもの頑張りも見て評価していると思う			78.9%
・信太高校は漢字検定など検定取得に熱心だと思う			62.1%
・信太高校は保育体験や看護体験など体験活動が多いと思う			50.4%



教職員・生徒にとってわかりやすい授業や教材の工夫ができています			94.4%
・学習指導において、テスト以外に複数の観点で評価できている			96.2%
・総合的な探究の取組みが進んでおり、効果を上げている			92.6%
・検定や資格取得は教育効果を上げている			72.2%
・校外での体験的な学習が進んでいる			59.3%





#### <分析>

- ◇全生徒の回答として、多くの質問に対して昨年度より肯定的な意見が増加しており、3つの項目で過去最高の数値となった。「興味をもてる授業が多く、そのために先生も工夫している」の項目では、73.7%で過去最高となっている。アンケートを始めた頃（H27）からの数値を見ると、53.5、45.5、46.5・・・となっており、長い期間をかけて、改善されてきたことがわかる。また、「授業が理解できている」という項目も、長い期間をかけて高い値へと変化している。
- ◇「総合的な学習の内容が進んでおり、効果をあげている」の項目では教員で92.6%の過去最高を記録した。しかし、「校内外での体験的な学習が進んでいる」の項目については、昨年度よりは増えているものの、R2年度に低い値になって以降、R1年度以前の水準には戻っていない。
- ◇検定試験への学校の取り組みについては、教員・生徒・保護者ともに、減少となった。特に、保護者については、過去最低の値となった。
- ◇「地震などの防災や安全について学ぶ機会が多い」という項目で、生徒で過去最高の値となり、「台風などの非常時の保護者連絡や防災について学校はしっかりと取り組んでいる」の項目の保護者の回答が、昨年より増加した。

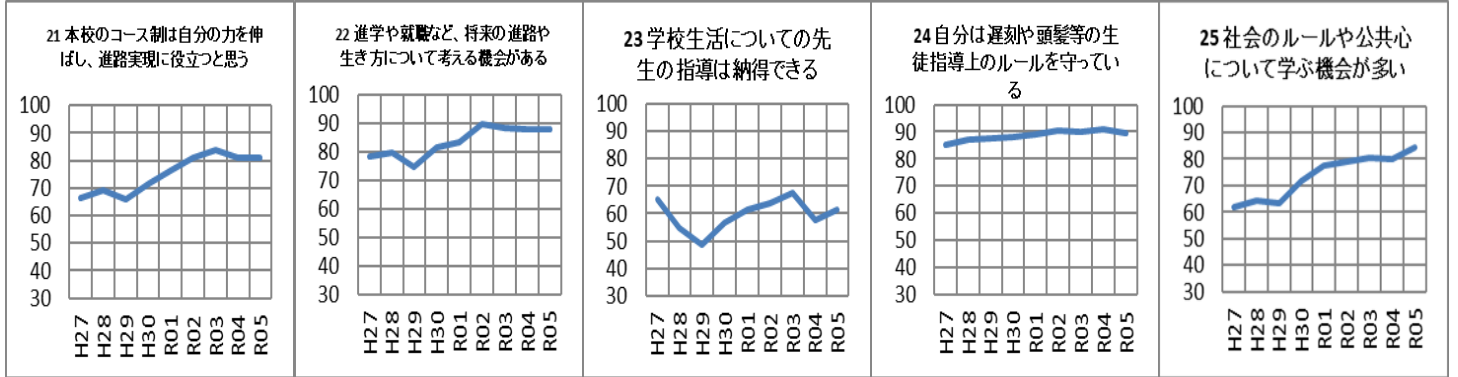
#### <重点目標>

教員は学習に対して肯定的な意見が高止まりしている状態である。体験学習については、コロナ禍の影響によって実施が難しかったことが影響していると考えられるが、今後、増加していくことを、生徒や保護者からも期待されていることがうかがえる。

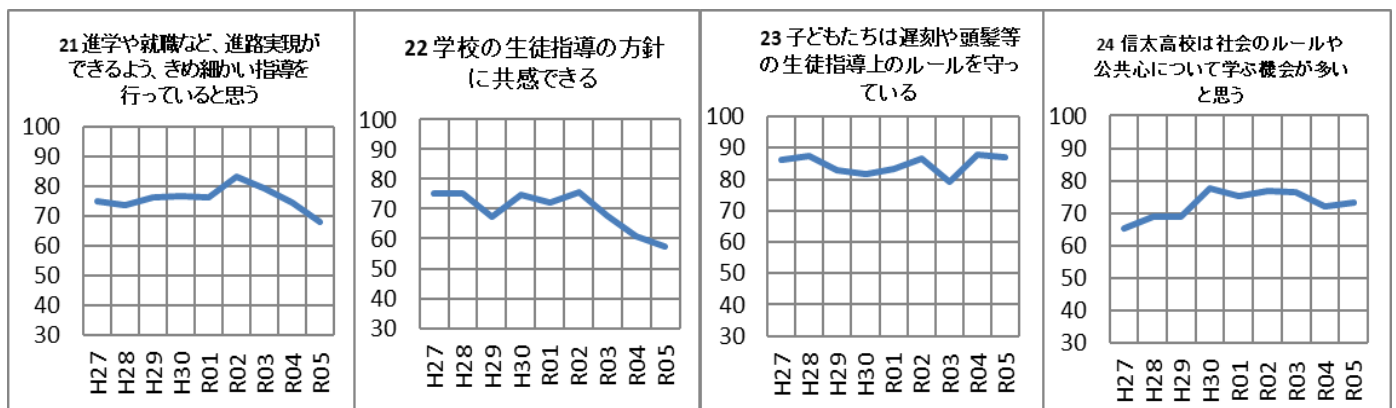
5. 進路指導・生徒指導

<評価>

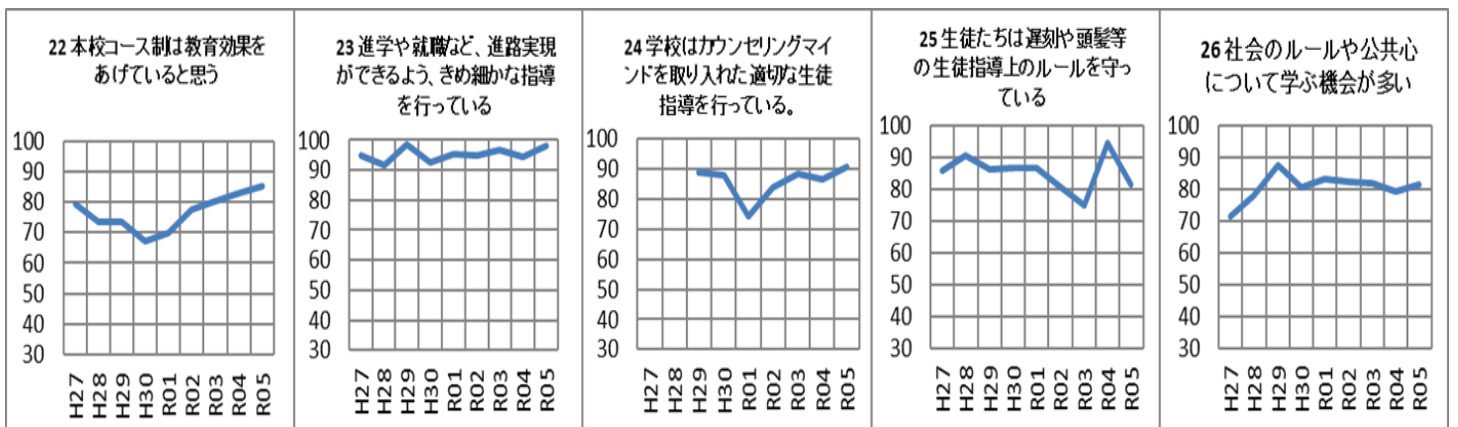
- 生徒・本校のコース制は自分の力を伸ばし、進路実現に役立つと思う 81.0%
- ・進学や就職など、将来の進路や生き方について考える機会がある 87.8%
- ・学校生活についての先生の指導は納得できる 61.5%
- ・自分は遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている 89.3%
- ・社会のルールや公共心について学ぶ機会が多い 84.3%



- 保護者・進学や就職など、進路実現ができるよう、きめ細かい指導を行っていると思う 68.1%
- ・学校の生徒指導の方針に共感できる 57.5%
- ・子どもたちは、遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている 87.2%
- ・学校は社会のルールや公共心について学ぶ機会が多いと思う 73.1%



- 教職員・本校コース制は教育効果をあげていると思う 85.2%
- ・学校は、進学や就職など、進路実現ができるよう、きめ細かな指導を行っている 98.2%
- ・学校はカウンセリングマインドを取り入れた適切な生徒指導を行っている 90.8%
- ・生徒たちは、遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている 81.5%
- ・社会のルールや公共心について学ぶ機会が多い 81.5%



## 【進路指導分野】

### <分析>

◇進路分野においては学校全体で取り組んでいることもあり、生徒・教員とも数値としては 80%を超える数値を出している。教員は「進路実現ができるよう、きめ細やかな指導をおこなっている」で 98.2%と非常に高い数値となっているのに対して、保護者の「進学や就職など、進路実現ができるよう、きめ細かい指導を行っていると思う」(保護者)の項目で 68.1%と昨年に引き続き減少となり、過去最低を更新した。アンケートを始めて以来、この項目で 70%を下回ったのは初めてとなる。

### <重点目標>

進路行事や校外での体験行事を充実させることで、進路について考える機会を充実させ、生徒が進路実現に向けて、どのような取り組みをしているのかを、保護者にも伝わる形で発信していく必要がある。

## 【生徒指導分野】

### <分析>

◇「学校はカウンセリングマインドを取り入れた適切な生徒指導を行っている」の項目(教員)において 90.8%と、過去最高の数値だったのに対し、「学校の生徒指導の方針に共感できる」の項目(保護者)が 57.5%と過去最低の数値だった。差が 33.3%となり、昨年の 25.9%よりも大きく開く結果となった。また、「学校生活についての先生の指導は納得できる」の項目(生徒)は 61.5%となっており、昨年より少し増加している。

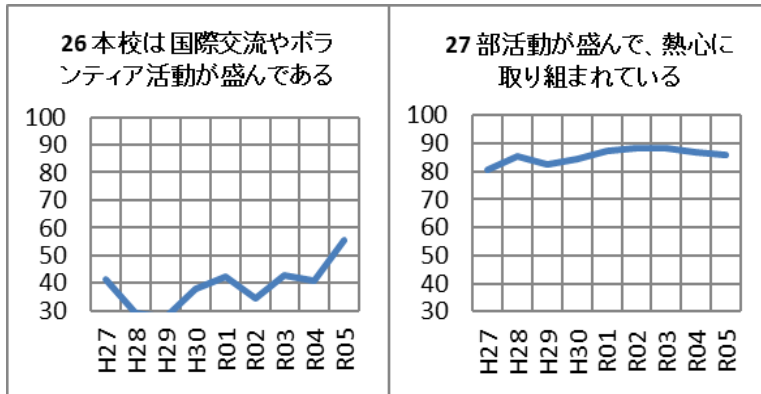
### <重点目標>

納得していないがルールは守っているという生徒が一定数いる。ルールを守っているという項目で肯定的な意見が非常に高いため、その数値の維持を目指す。そして、生徒指導を行う際にも、しっかりと双方が納得できるように説明を行うことが必要となってくる。また「社会のルールや公共心について学ぶ機会が多い」については生徒・保護者・教員すべてにおいて約 80%の肯定的評価を得ている。生徒指導は社会に出た時の基礎となる部分であるという考えを教員・生徒・保護者がしっかりと共有し、80%以上の高水準を維持していきたい。

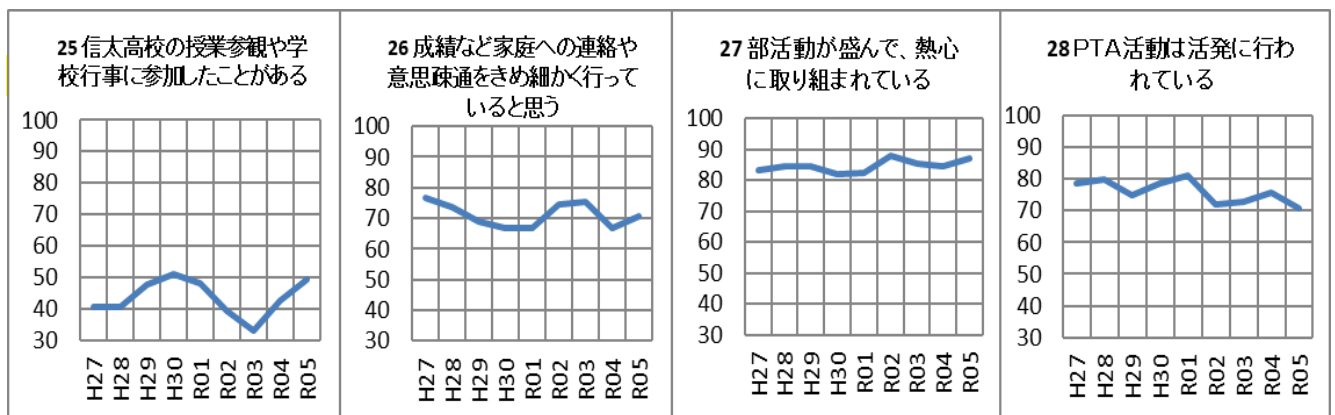
6. 特別活動・その他

<評価>

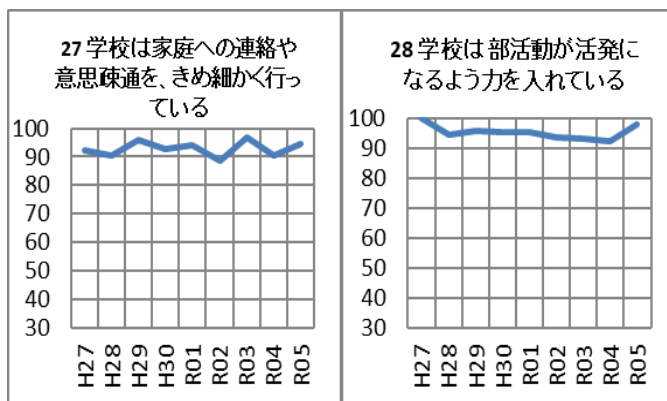
- 生徒・本校は国際交流やボランティア活動が盛んである 55.6%
- ・部活動が盛んで、熱心に取り組まれている 85.7%
- ・部活動に入っていますか (運動部 38.1% 文化部 13.9% 両方 1.0%) 全体 53.0%



- 保護者・信太高校の授業参観や学校行事に参加したことがある 49.5%
- ・成績など家庭へ連絡や意思疎通をきめ細かく行っていると思う 70.5%
- ・部活動が盛んで熱心に取り組まれている 87.0%
- ・PTA 活動は活発に行われている 70.8%



- 教職員・学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている 94.5%
- ・学校は部活動が活発になるよう力を入れている 98.1%



<分析>

◇部活動については、保護者が微減しているが、いずれも80%以上の高い数値である。

◇「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っていると思う」の項目では保護者も教員も増加している。また、教員は94.5%に対して保護者は70.5%となり、両者の開きが昨年度23.7%、今年度24.0%となり、ほぼ例年通りと言える。

◇保護者の「授業参観や学校行事に参加したことがある」の項目は増加しており、新型コロナウイルスの影響で中止や規模が縮小されていた活動が、平常に戻りつつあり、その影響だと考えられる。しかし、「PTA活動は活発に行われている」の項目は過去最低の70.8%となった。

<重点目標>

部活動の加入率の増加を目指し、より一層部活動の活性化を図る。

国際交流やボランティア活動など、生徒が中心となって、達成感や成長を実感できる取り組みを進めていく必要がある。

保護者への情報提供については、ホームページやブログ、さくら連絡網などを活用し、保護者・教員ともに連絡を取りやすい手段を考えていく必要がある。また、参加しやすい公開授業や学校行事のための、取り組みの工夫をしていきたい。